www.wako.ac.jp/gender/

vol. 19
2012年4月発行

GF通信
ジェンダーフォーラム
GENDER FORUM PRESS
女とは？男とは？ 考えるマガジン

和光大学　ジェンダーフォーラム　〒195－8585　東京都町田市金井町2160 和光大学ジェンダーフリースペース（G112）TEL 044－989－7777　内線4112

GF LECTURE

共通教養科目「法と人権」と連携で講演会開催

『カップルの生活と法』

新しい家族のあり方や家族法の問題点を考えました。

2011年10月6日、和光大学にゲスト講師として茨城大学准教授の齊藤笑美子先生をお招きし、『カップルの生活と法』と題する講演会を開催しました。講演は、人々が抱き合って喜ぶ映像の説明から始まりました。この映像は、2003年にアメリカのマサチューセッツ州の州最高裁で、同性婚の禁止が平等原則に反し、州憲法違反であるとの判決が出された直後に同性愛者やその支援者たちが歓喜に沸いているところであるとの説明がありました。続いて、ワインで有名なフランス・ボルドー市近郊の市庁舎で行われた結婚式で、市長が二人の男性カップルを祝福している映像が紹介されました。

これらの映像を見せながら、齊藤先生は、結婚は今日では男女だけのものではない、と主張されます。その理由として、生殖や家族形成は、日本でも結婚の法的条件にはなっていない点を挙げられます。年齢や身体的理由で生殖能力のない人の結婚や臨終婚などは法的に何ら問題とされません。このように、今日結婚の目的が、家制度の保護から、経済生活を営む対象あるいは愛情の対象としてのパートナーの選択という意味での個人的利益の保護に変化した以上、結婚は男女間に限定される必要はないと齊藤先生は言われます。

また、現行の日本国憲法下においては、性別によって家族内での権利や義務が異なってはならないとされているので、今後は日本においても同性カップルの扱いの平等化を進めていかなければならないということになります。

こうした主張に対しては、同性カップルを認めるとますます少子化が進むのではないか、という批判がなされることがあります。しかし、齊藤先生によれば、そういった批判は全く根拠のないものです。国によっては、同性カップルが養子をとることや、カップルのうちどちらかが人工生殖を利用して子をもつことも許されていますし、同性カップルを認めるパートナーシップ制度（PaCS）をもつフランスの出生率は先進国の中でも高い水準にあります。フランスでは、パートナーシップ制度導入以降、同性カップルだけでなく異性カップルによる利用も増加していますが、だからといって結婚自体が減少しているわけではありません。日本では、子を持つことと結婚は不可分のものと考えられがちですが、フランスでは、婚外子の多さ（2010年：55％）に象徴されるように、親になることと結婚することとは別々に考慮される傾向にあるようです。日本では今だに残されている婚外子（非嫡出子）と婚内子（嫡出子）の

▲「色々な生き方が認められる自由で平等な社会の実現を」と語る齊藤笑美子茨城大学准教授・2011年10月6日・E-101教室

差別も、フランスにおいては法律上は消滅しています。

では、日本でも非嫡出子に対する差別をなくし、シングル女性の出産を奨励すれば、むしろ少子化の解消につながるのかというと、必ずしもそうとは言えません。昨今の報道にもあるように女性の貧困の問題が深刻化しているからです。子を持ちたくても経済的理由から断念せざるをえない多くの女性がいる状態を放置したままでは、少子化は続くでしょう。

このような事例を紹介しながら齊藤先生は、同性カップルの問題は「特殊」な人の「特殊」な事柄ではなく、一人ひとりの人間が色々な生き方を認められる、自由で平等な社会の実現と大きく関わっている問題だということを指摘され、講演を締めくくられました。（**徳永貴志**・経済学科）

COMMENT FROM STUDENT

研究交流会に参加して

講演の後、ジェンダーフリースペースに場所を移し、齊藤先生を囲んで昼食を取りながら、簡単な自己紹介と講演の感想を述べ、フランスのパートナーシップ制度（パックス）について、その経緯や状況についてもう少し詳しく聞かせて欲しいとの質問が出ました。

パックスというのは、一緒に暮らす二人の共同生活を整えるために結ぶ新しい契約で、性別の組み合わせ（女と女、男と男、男と女）を問題にしない点で、フランスの世論を二分する大論争を巻き起こしたとの事です。国会、司法の場から市民までそれぞれの意見が議論されたフランスの様子に、日本の家族制度（選択的夫婦別姓や婚姻適齢など）に関する民法改正の議論の深まりとの違いが印象的でした。

また、文化の違いという点で、2011年9月まで国立西洋美術館で開催されていた『古代ギリシャ展』にも話がおよびました。ギリシャ人の身体表現の中には、同性愛を描いたものや若い男性の肉体を描いた絵画や彫刻が展示されていたこと。日本での展示に際して、「当時のギリシャでは同性愛の文化があり、そのような描写があります」といった意味の注意書きが会場内に張り出されていて、普通の恋愛や結婚というものが、時代や文化、宗教によって異なっている事を改めて気づかされました。

一方、日本にはパートナー制度のようなものはないので、同性カップルの場合は法律的に夫婦と認められないことで、病院での親族同意やどちらか一方が亡くなった際の財産分与での権利が保障されていないなどの事例が存在しています。

さらに、2004年に制定された「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律（性同一性障害特例法）」について。要件を満たせば戸籍の性別表記を変更し、変更後の男女で結婚することも出来るようになったものの、変更した男女の場合、夫婦と認められているにもかかわらず、人工授精で子供ができても嫡出子として届けを受理してもらえないといった事例が紹介されました。そのような現状を聞きながら、家族の在りようは、少数者の特別な問題ではなく、誰にとっても身近な問題として考える必要を感じました。

始めは緊張していた参加者も、自分の立場から家族や結婚について自由に感じたままを話しつつ、他の様々な感じ方や生き方を聞く中で、納得がいったりいかなかったり･･･。ただ次第に、絶対的な答えがあるのではなく、人や家族の数だけ色々な形があり、自分が暮らす日本社会にとって、自分自身にとっての家族のありようを考えるとてもいい機会となりました。

（**境　磯乃**・人文学部人間関係学科卒業生）

GF WORKSHOP

やってみました！ 和光流クッキング

ジェンダー・フリースペースを‘にわかキッチン’に、今回もGF和光流クッキング教室は大好評でした。

第3回目を迎えた学生のための『やってみよう！和光流クッキング』と題した料理教室を、2011年12月7日（土）にジェンダー・フリースペースで開催しました。

いつもは、資料室兼談話室であるこの部屋が、この日は‘にわかキッチン’に早変わり。まわりを本に囲まれた知的空間の真ん中で、学生と教員たちが共に協力し合ってお料理に挑戦しました。

今回のメニューは、学生たちからの要望が多かった和食に決定。特に煮物、寿司などに複数の希望があったので ❶鮭の混ぜ寿司 ❷筑前煮 ❸エビ団子汁 ❹デザートの白玉団子 となりました。

一人暮らしの学生たちが普段使うことの少ないと思われる根菜類をたっぷり使った筑前煮は体に良いのは勿論、「多めに作れば次の日もまた次の日も食べられますよ」などと解説しながら、まずは大量の野菜を切ることに挑戦しました。その後、大鍋で煮込みながら途中で

▲サラスワティ・ムトゥさんも団子作りに挑戦。

▲鮭ちらしが完成！　美味しそ～ !!

▲エビすり身団子汁もそろそろ・・。

今回のレシピを紹介します。
自分流の味付けを楽しんでください。

【鮭ちらし】

〈材料…4～5人分〉
お米…3合
鮭…2切れ
絹さやえんどう
ごま
たまご…2個
海苔

〈調味料〉
合わせ酢
酢…大さじ8杯
砂糖…大さじ5杯
塩…小さじ1.5杯
砂糖、塩…少々

❶鮭は焼いて皮と骨を取り除き身をほぐす。
❷絹さやはさっとゆでて水にとり色止めをし、適当な大きさに刻む。
❸炊きあがったご飯を広げ、ウチワなどで扇ぎながら合わせ酢を打つ。
☞point
この時ご飯は切るように混ぜると、粘りが出ないでシャッキリと仕上がる。
❹鮭、絹さや、ごまを混ぜさましておく。
（時間をおくと　酢が馴染む）
❺卵に砂糖、塩少々を混ぜ、薄焼き卵を作り、千切りにする。
❻器にご飯を盛り、海苔、卵を飾る。

【エビすり身団子汁】

〈材料…4人分〉
エビすり身（市販の物で良いが、作る時はエビをたたいて玉ねぎのみじん切り、塩少々、片栗粉少々を混ぜる）
だし汁…600cc
エリンギ…1本
三つ葉
酒、塩、醤油…各小さじ1杯

❶エリンギは3㎝ぐらいの短冊切りに。
❷だし汁を煮立たせた中にエビをまるめて入れ、エリンギも加える。
❸調味料で味をととのえる。
❹器に盛り、三つ葉、あればユズなどをあしらうと色、香りとも良い。

絹さやえんどう…少々
だし汁…2.5カップ
しいたけ戻し汁…0.5カップ

❶干ししいたけは水に漬けて戻しておく。
❷絹さや以外の材料はすべて同じ大きさに切りそろえておく。
❸絹さやはゆでておく。
❹こんにゃくは水からゆで、ゆでこぼしてアク抜きをする。
❺鍋にごま油を入れ肉と人参を炒め、絹さや以外の他の材料を入れて更に炒める。
❻だし汁を加えひと煮したら、砂糖、酒、しょうゆを入れアクを取り、落としぶたをして煮る。
❼みりん、しょうゆ少々を加え仕上げる。
❽器に盛ったら彩りに絹さやを飾る。

【筑前煮】

〈材料…4人分〉
鶏もも肉…1枚
レンコン…100g（小1節）
ごぼう…100g（小1本）
たけのこ…100g
人参…80g（1本）
こんにゃく…1/2～1枚
干しシイタケ…6枚

〈調味料〉
しょうゆ…大さじ3杯
砂糖…大さじ1杯
日本酒…大さじ1杯
みりん…大さじ3杯
ごま油…少々

【白玉団子】

〈材料…4人分〉
白玉粉…100g
きな粉　黒みつ

❶白玉粉に水を加え、耳たぶくらいの硬さにこねたら、一口大に丸める。
❷沸騰した鍋の中に入れ、浮き上がってきたら1～2分して冷水にとる。
❸器に盛り、好みできな粉や黒みつをかける。

「どう？　味見してみて。もうちょっと濃くした方がいい？」なんて相談しながら煮込むこと数十分。その間にお寿司とおつゆ、デザートまで作ってしまいました。

お団子といえば真ん丸を想像しますが、この時の白玉（ヨモギ入りを作ったので緑玉でした）は丸めることをちょっと疎かにしたせいか、とりどりの形で個性豊かなお団子となりましたがお味は美味。この日は船橋邦子先生の授業の特別ゲストとしてお迎えしたサラスワティ・ムトゥさん（マレーシア）と通訳の方がたも参加してくださり、興味深そうに料理の出来上がるのを見学しておられました。ムトゥさんはこの部屋の松井やより文庫に興味を示されたようです。それもそのはず、2011年「女性人権活動奨励賞（松井やより賞）」を受賞されたばかりでした。そんな方をお迎えできてこちらも光栄でした。

さて、最後に皆で楽しくお喋りしながら試食している内に外はすっかり暗くなってしまい「第3回和光流クッキング教室」は無事に終了。この日の経験が学生たちのこれからの豊かな食生活に少しでも役に立つことを願っています。学生の皆さん、先生方、スタッフの方ご協力ありがとうございました。（**安河内みどり**・GFスタッフ）

GF EVENT

映画とトークとパネル展示

『山川菊栄の現代的意義』

和光大学総合文化研究所の文化企画に協力しました。

2011年11月3日に、和光大学総合文化研究所の主催で、山川菊栄に関する映画とトークとパネル展示が開かれ、ジェンダーフォーラムも全面的に協力しました。山川菊栄は、日本のフェミニズムや女性労働を語る上で欠かすことのできないキーパーソンですが、特に若い世代にはあまり知られていないようです。今回のイベントを通して、ぜひ多くの人たちに、山川菊栄の足跡を知り、今後に活かしていただきたいとの趣旨で、企画しました。開催日の11月3日は、奇しくも菊栄の121回目の誕生日に当ります。

今回のイベントの中心は、映画「山川菊栄の思想と活動―姉妹よ、まずかく疑うことを習え」（76分）の上映でした。映画は、1890年の菊栄の誕生から、1920年代の母性保護論争、「婦人の特殊要求」提案、戦後の労働省初代婦人少年局長としての活躍、婦人問題懇話会の設立など、山川の活動の足跡をたどりつつ、山川を受け継ぐ女性たちの声を伝えた作品です。見所は、直接山川に接した人たちや山川研究者など、23人もの人たちが、それぞれの立場から、山川を語っていることです。

▲左から佐藤礼次、井上輝子、山上千恵子の各氏・ぱいでいあ

「山川菊栄について、わかりやすくまとめられている」等の感想が、多く寄せられています。

上映後、井上が司会し、この映画の製作・監督した山上千恵子さんと、映画の企画制作者である山川菊栄記念会の佐藤礼次さんのお話をうかがいました。映画のメイキング裏話に加えて、労働運動研究家でもある佐藤さんから、菊栄の夫、山川均の人柄や運動史、夫妻の生活などについてのレクチャーをしていただいた後、会場にマイクを回し、映画製作に関った人たちの生の声と、観客からの映画を見ての感想などをうかがいました。山川夫妻の孫で、和光大学卒業生でもある山川しげみさんご夫妻からも、発言をいただくなど、盛りだくさんな会になりました。

トークを聞けなかった方は残念ですが、映画は全国各地ですでに40回以上の上映会が行われており、今後もしばらく上映会が続きます。また、山川菊栄評論集などの著作も出ていますので、関心のある方は、ぜひ何らかのかたちで、山川菊枝に接してみることを勧めます。

（**井上輝子**・現代社会学科）

GF STUDIES

『ジェンダー関連の卒業論文・研究論文発表会』開催

４人の熱のこもった研究発表でした。

1月18日（水）、ジェンダー・フリースペースで、ジェンダー関連卒業論文・研究論文発表会が開かれました。今年度に、ジェンダーフォーラムが開催してきた卒論講習会の第4回目に当ります。

今回は、以下の4人の方々による発表がありました。心理教育学科田中志緒莉さん「昭和一桁世代の一生―男と女のライフヒストリーによる比較分析」、現代社会学科木村優里さん「セクシュアル・マイノリティのライフヒストリー―当事者から見た世代別『生き辛さ』の原因追究」、現代社会学科大胡麻奈美さん「『腐女子』はなぜ「やおい」作品を好むのか」、研究生阿野理香さん

▲卒業論文・研究論文発表会・2012年1月18日・GFS

「奥様のアイデンティティ・クライシス」の4人です。

それぞれ、分厚いレジュメに基づく、熱のこもった発表でした。各発表に、井上輝子・竹信三恵子・船橋邦子の3教員がコメントするかたちで、会は進行しました。4時半から7時ごろまで、とても充実した時間を過ごしました。

ここで発表された卒業論文・研究論文は、ジェンダー・フリースペースでコピーを保管し、閲覧に供す予定ですので、関心のある方はご連絡ください。

（**井上輝子**・現代社会学科）

WAKO GENDER FREE SPACE HISTORY 2004—2008

和光大学ジェンダー・フリースペースの活動　2004—2008

2004年

1月　「GF 通信　3 号」発行　—海外情報「ノラの家」吉川信（本学教員）
4月　第 2 回企画展示「モノにみる女 / 男—履物とアジアのモノの性別による様々な違い」
5月　ワークショップ「プレイバックシアター—ジェンダーフリーが私の体験になる日」プレイバッカーズ
6月　メディア&トーク「アイヴァン・モリス監督『ラストサムライ』にみる武士道と男らしさ」講師：林真一郎（本学教員）
6月　GF 初夏のシネマ『めぐりあう時間たち』『女はみんな生きている』『ランド・アンド・フリーダム』『クジラの島の少女』を上映
11月　「GF 通信　4 号」発行—「男が家事で女が仕事?」坂爪洋美（本学教員）・「女性会議から 10 年—NGO の動向」船橋邦子（本学講師）
11月　講演「戦後占領期の少女雑誌にみる少年少女の交際」講師：キャサリン・ユーナ・ベイ（和光大訪問研究員）
11月　講演「ノンストップ辛口トーク!　激辛の 21 世紀 あなたはどう生きるか」講師：辛淑玉（作家・コンサルタント）
12月　映画とトーク『第七官界彷徨—尾崎翠を探して』講師：浜野佐知監督・沢部ひとみ（ライター）

2005年

4月　「GF 通信　5 号」発行　—海外情報「聖女のヘソ出し」植村洋（本学教員）
5月　第 3 回企画展示「モノにみる女 / 男—おもちゃが語るジェンダーの歴史」「ジェンダーを語る夕べ」
6月　ワークショップ「デートレイプを考える」講師：池橋みどり（本学講師）
6月　GF 初夏のシネマ『スパニッシュ・アパートメント』『エイプリルの七面鳥』『キッチン・ストーリー』『下妻物語』を上映
7月　ワークショップ「どうしようかな、私のキャリア」講師：坂爪洋美（本学教員）
9月　ワークショップ「キャリアプランニング・セミナー」講師：キャリア・レボリューション研究会
10月　「GF 通信　6 号」発行　—海外情報「韓国での第 9 回女性学会前夜祭」井上輝子（本学教員）
10月　フォーラム・シアター「ジェンダーってなに?　in 和光大学」ファシリテーター：竹森茂子、すずきこーた、花崎　攝
12月　「GF 通信　7 号」発行　—海外情報「ジェンダーの目で軍隊を捨てた国を見る」船橋邦子（本学講師）

2006年

1月　講演「あなたの一人暮らし　これからどうなる?」講師：坂本洋子（m ネット・民法改正情報ネットワーク）
1月　「GF 通信　号外号」発行　—ミニコミ映画評・漫画・書評特集
5月　GF 初夏のシネマ　女性監督特集『子猫をお願い』『みんな誰かの愛しい人』『スタンドアップ』を上映
6月　第 4 回企画展示「ポスターにみる女 / 男」「ジェンダーを語る夕べ」
6月　シンポジウム「ジェンダーの視点で読み解く現在」
7月　パフォーマンス「テロリストたちの祝祭」パフォーマー：キタムラアキラ
7月　「GF 通信　8 号」発行　—コラム「子を持つと決めたら見るサイト」杉本昌昭（本学教員）
10月　ワークショップ「未来ワークでコミュニケーション力を高めよう」講師：疋田奈緒美（産業カウンセラー・本学卒業生）
11月　講談「花も嵐も、講釈師が語ります—バツイチ子連れ、泣き笑い半生記」講談師：神田香織—語りの迫力に圧倒されました
11月　映画上映　マルガレーテ・フォン・トロッタ監督・脚本『ローザ・ルクセンブルク』和光大学院生映画上映会

2007年

3月　「GF 通信　9 号」発行　—エッセイ「〈産む機械〉発言をめぐって」船橋邦子（本学講師）・「坂本文庫」長尾洋子（本学教員）
3月　『坂本文庫』開設—坂本喜久子さんより約 200 冊の女性史関係の文献を寄贈される
4月　ジェンダー・フリースペース（G112 教室）でジェンダーカフェ開店
5月　映画上映　リナ・ホシノ監督『In God's House』
5月　講演「異文化とジェンダー—和光的な彼女　in 韓国」講師：田端かや（翻訳家・ライター・本学卒業生）
5月　GF 初夏のシネマ『ブロークバック・マウンテン』『トランス・アメリカ』『母たちの村』を上映
6月　第 5 回企画展示「松井やより全仕事展」
6月　トークイベント「世界的ジャーナリスト　松井やよりと私たち」講師：船橋邦子（本学講師）・井上輝子・長尾洋子（本学教員）
6月　松井やよりさんの蔵書の寄贈を受け〈松井文庫〉開設
6月　映画上映　班忠義監督『ガイサンシーとその妹たち』・共通教養科目「近代日本の戦争と軍隊」と共催
7月　講演「敗戦、去勢、逆コース—黒澤明『野良犬』を読む」講師：千葉慶（本学講師）
9月　「GF 通信　10 号」発行　—エッセイ「ヒトはリアル羊の夢をみるか」塩脇康夫（本学大学院生）
10月　ワークショップ「デート・バイオレンスを考える」講師：瀧田信之（END VIOLENCE 代表）＋ユースリーダー
12月　講演「漫画と MANGA を読み比べる——ジェンダーの視点から」講師：杉本紀子（本学教員）
12月　講演「『地図に見る日本の女性』の編著者が語る」講師：木下礼子（NPO 女の空間）

震災での女性支援はなぜ必要なのか

東日本大震災での被災者支援で、「女性支援」の視点の欠如が問題になっている。避難所リーダー、復興計画会議や地域の防災会議のすべてで女性の数は極めて少なく、被災女性のニーズを意思決定者に伝えるパイプが閉ざされてしまっているからだ。

――家の恥はそとにさらすな

2011年4月、震災から約1カ月たった福島県郡山市内を訪れた。市の保育園で１年契約を繰り返し更新して働いてきた知人の非常勤保育士（60歳）が、3月末でいきなり契約打ち切りを通告されたと聞いたからだ。

体力の衰えを感じ、次年度から週1日の短時間勤務に切り替えてほしいと交渉中に震災と原発事故があり、そのさなかでの通告だった。保育士のような女性が多い仕事を次々と不安定な短期契約に変えていった末、「震災で雇用の維持が大切」といいつつ年度末に機械的に打ち切っていく措置に「女の仕事の軽さを、改めて思い知った」と言う。

彼女が呼び集めてくれたさまざまな福島の女性たちを通じて、被災下での女性固有の問題が明らかになった。大手電機メーカーの営業所で働いている女性のもとには、原発事故の警戒区域に指定された町の介護施設から実母や親類の母が逃げてきた。正社員としての勤務が終わって帰宅すると高齢者2人の介護が待っている。娘の介護は当然とされる空気の中で、支援の手は差し伸べられない。「原発事故は私が起こしたわけではないのに、なぜこんな目にあうのか」と、彼女は疲れ果てた表情で訴えた。

▲宮城県内の避難所で被災女性（手前右端）に手芸を教えながら相談にのる女性ＮＧＯのメンバーたち

風評被害に悩む農家の女性からは、夫や息子のいらだちを、女性たちが息をつめてうかがっている様子や、そんな悩みを「農家の嫁は家の恥を外にさらすな」と言われて、だれにも相談できずにいる現状を聞いた。

――ニーズが伝わらぬ避難所

避難所でも、女性のニーズが伝わらず、居住性に問題が起きていることが、支援に駆けつけた女性たちから明らかにされて行った。

初期は、間仕切りがない平土間の避難所で、着替えや授乳の場所がなく、取材陣が走り抜ける通路の脇で毛布をかぶって着替える女性もいた。政府に間仕切りを支給するよう求める動きが起こり、支給が始まったが、女性の声が抑え込まれた避難所内では積まれたままという例も少なくなかった。「避難所は家族、間仕切りを使うなんて水臭い」と男性リーダーが叱咤し、使わせてもらえなかったとの声も聞いた。

避難が長引くと、炊事当番を担当させられた女性たちの疲労が問題化した。1日3食を100人分つくり続け、リーダーに「疲れた」といったら「大変だな、それでは、かっぱえびせんですませよう」と言われた女性もいた。男性が交代するという発想がなかったのだ。

化粧水やブラジャーなどの女性特有の必需品について「ぜいたくと思われないか」と言い出せなかったという女性もいた。

これらは、女性の支援者が入り、マッサージや手芸づくりなどを通じて癒しながら、話を聞いていった結果、ようやく出てきた声だ。避難所に男性リーダーしかいないため、女性たちが自らの回復に必要な支援について率直な声を届けることができずにいたことをうかがわせる。

――防災会議への女性参加ゼロは半数近く

復興計画でも、女性の雇用の回復は、男性に比べて立ち遅れている。筋肉労働である建設やがれき処理などの仕事が多いこと、女性が働いてきた水産加工場や観光業、津波でつぶれたことに加え、「男性にさえ雇用があれば、女性は食べていける」といった社会意識が、女性の仕事づくりへの目配りを阻んでいる。

たとえば、政府が打ち出した「生涯現役・全員参加・世代継承型雇用創出事業」は、女性や若者、障害者、高齢者といった「大黒柱」とみなされない人々の被災地での雇用創出を目指したものだが、岩手県は当初、この事業についての説明で「女性」を省いてしまい、女性たちからの抗議で修正した。震災で男性の支援を受けられない女性も増える状況で、なお従来の男性世帯主中心の復興をイメージしていることが見て取れる。

背景にあるのは、意思決定への女性参加のあまりの少なさだ。震災直後に立ちあげた政府の復興会議では女性は一人にとどまり、2011年10月に公明党の女性議員らが全国の658自治体を調査したところ、地方防災会議で女性ゼロは44％、防災計画に女性の意見を反映させているかどうかについては、55％が「いいえ」と答え、防災部局に女性職員がいない自治体は52％にのぼった。

災害での女性支援については、「被災の大変さに男も女もない」といった反発が、男性ばかりか女性たちからも返って来ることが多い。だが、人口の半分を占め、育児・介護などのケア労働という見えにくい分野を担当させられてきた「女性」という存在に向き合わないままでは、真の復興は望めない。日本社会の今後がジェンダー問題の解決にかかっていることを、今回の震災は、改めて浮かび上がらせている。

（**竹信三恵子**・現代人間学部現代社会学科）

GFS BOOKSHELF

ジェンダー・フリースペースの所蔵図書を紹介します。

ジェンダーフリースペースでは、いわゆる古典から最近刊行された本、最先端の研究書、雑誌や漫画にいたるまで、幅広くジェンダー関連書籍を取り揃えています。また、〈坂本喜久子文庫〉や〈松井やより文庫〉といった個性的な文庫も自慢のひとつです。たくさんの本に囲まれて、ジェンダーにまつわる話をしたり、お茶を飲みつつ読書にふけったり……ぜひGFSの空間をおもしろく活用してください。このコーナーでは蔵書の一例として、最近収蔵した図書の一部をご紹介します。

『女性とたばこの文化誌　ジェンダー規範と表象』館かおる（世織書房、2011）

『ジェンダー六法』山下泰子他（信山社、2011）

『プレイバックシアター入門』宗像佳代（明石書店、2011）

『原水禁署名運動の誕生』丸浜江里子（凱風社、2011）

『資生堂という文化装置』和田博文（岩波書店、2011）

『知的複眼思考法』苅谷剛彦（講談社、2002）

『新・女性学への招待』井上輝子（有斐閣、2011）

『パックス―新しいパートナーシップの形』ロランス・ド・ペルサン[著]、齊藤笑美子[訳]（緑風出版、2004）

『現代女性とキャリア』（現代女性キャリア研究所、2011）

『フロイト全集』ジークムント・フロイト（岩波書店、2009、全22巻）

『新編　日本のフェミニズム』上野千鶴子ほか（岩波書店、2009、全12巻）

『女、一生の働き方』樋口恵子（海竜社、2010）

『喪男の社会学入門』カラスヤサトシ、千田有紀（講談社、2010）

『お産のレシピ』きくちさかえ（学陽書房 2009）

『女性学研究　18号』（大阪府立大学女性学研究センター）

『ジェンダー研究21　第一巻』（早稲田大学ジェンダー研究所、2011）

『オトメン（乙男）』菅野文（白泉社、2010、1巻～10巻）

『越境するジェンダー研究』東海ジェンダー研究所（明石書店、2010）

『もう一つのレイテ戦―日本軍に捕らえられた少女の絵日記』レメディアス・フェルアス（木犀社、1995）

『「暮らしの手帖」とわたし』大橋鎮子（暮らしの手帖社、2010）

『夢をかたちにした女性たち』（国立女性教育会館、2009）

『ジェンダーと社会　男性史・軍隊・セクシュアリティ』木本喜美子、貴堂嘉之（旬報社、2010）

『自由に考え自由に学ぶ』鈴木祐子（労働大学、2006）

［GFスタッフからおすすめの一冊］

『男同士の絆
―イギリス文学とホモソーシャルな欲望』
イヴ・K・セジウィック著、

上原早苗・亀澤美由紀訳（名古屋大学出版会、2001）

18・19世紀イギリス文学に見られる「ホモソーシャルな欲望」のありかをジェンダー／セクシュアリティの視座から探求する名著。ほんらい同性愛恐怖を内在するとされる「ホモソーシャル」という概念をあえて「欲望」の地平にのぼらせることで、男性社会的欲望が展開してきた近代的表象の諸相を描きだす。

膨大なテキスト群から「男同士の絆」の歴史的成立を読み解くという努めてローカルな作業を通じて、〈近代の発生〉、〈リビドーと政治〉といった巨大な歴史的転換の一端をも開示しようと試みる。日本においては、とりわけ夏目漱石研究にもたらした影響が注目される。　（**宮嶋隆輔**・GFスタッフ・総合文化学科４年）

GF BOOKNEWS

『新・女性学への招待』

井上輝子著・有斐閣・2011年

本書は、1970年代以来（特に90年代以後）の女性学の研究成果を踏まえて、女性が生まれてから死ぬまでに直面するジェンダー問題を、幼児期、学校生活、職場、性と恋愛、結婚生活、子産み・子育て、更年期、高齢期と、ライフステージごとに解説した本です。

『女性学への招待』を最初に出してから20年が経ち、女性をとりまく現実も研究も大きく変化しました。その変化を受けて、前著を全面的に書き換え、『新・女性学への招待』として、あらためて出版し、副題を「変わる/変わらない/女の一生」としました。

ジェンダーに関心を持っている人も、まだあまり考えたことの無い人も、本書を読むと、現代社会で生きる私たちの人生が、その人の性別によって、いかに異なった道を歩むことになるかがわかるはずです。女性だけでなく、男性にもお勧めです。読みやすいので、ぜひこの本を読んで、自分の生き方を考えてみてほしいです。　（**井上輝子**・現代社会学科）

FROM THE GENDER FREE SPACE

いろいろやってます、ジェンダー・フリースペース。

ジェンダー・フォーラムの活動拠点である、ジェンダー・フリースペースでは、GF通信でお知らせしている講演会や研修会以外にも、たくさんの活動を行なっています。

まずお馴染みのジェンダー・カフェ。毎週水曜日のお昼休みに、情報交換や交流、そしてなごみの場としてのカフェを開いています。

またジェンダー関連の自主的な勉強会の機会を提供しています。2011年度には学生による「セクシュアリティ学習会」が行なわれていましたが、2012年度は、それをさらに発展させて「せくしゅある　しゃべり場」という学生の研究・学習成果を自由に発表する場を設けます。さらに今年は、簡単にできるクッキングの講座や手芸講座など、楽しい企画も予定しています。

これらの学習会や講座を「のぞいてみたい」「参加してみたい」などご関心がありましたら、ぜひ和光大学ジェンダー・フォーラムにお問い合わせください。お待ちしています。　（**阿野理香**・GFスタッフ）

2011年度　ジェンダー・フォーラムの活動

4月　「GF通信　17号」発行
5月10日　〈ジェンダー・カフェ〉オープン
5月18日　「卒論講習会―ジェンダーの視点から」
　講師：井上輝子・竹信三恵子・船橋邦子
6月7日　ワークショップ
　「プレイバックシアター―あなたが語り役者が演じる」
　上演：劇団プレイバッカーズ
6月9日―7月9日　ワークショップ
　「和光大生のための護身術講座・全5回」
　指導：関根秀樹＋和光大学空手部
6月29日　ワークショップ
　「デーティング・バイオレンス―恋人からの暴力」
　講師＝瀧田信之（湘南DVSP）
7月13日　「第2回卒論講習会」
9月30日　「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」の
　修了者1名に履修証明書を発行
10月6日　講演「カップルの生活と法」
　講師＝斎藤笑美子茨城大学准教授
10月　「GF通信　18号」発行
11月3日　映画とトークとパネル展示
　『山川菊栄の現代的意義』
　主催＝和光大学総合文化研究所
　会場＝和光大学ぱいでいあ
12月7日　「第3回和光流クッキング」指導：GFスタッフ
2012年1月18日　ジェンダー関連卒業論文発表会
3月19日　「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」の
　修了者3名に履修証明書を発行